

徳島県立総合大学校 とくしま政策研究センター 平成22年度 外部評価委員会 議事録

1. 日 時 平成22年6月30日（水）
午前9時30分から午前11時30分まで
2. 場 所 徳島県自治研修センター 1階第3教室（徳島市南庄町）
3. 出席者（別紙「出席者名簿」参照）
 - （1）委 員 5名全員出席（委員長、副委員長、委員）
 - （2）職 員 6名全員出席（所長、副所長、主任研究員、研究員）
 - （3）その他 1名出席
4. 次 第
 - （1）開会
 - （2）開会挨拶（所長）
 - （3）議事
 - ① 平成21年度研究成果
 - 地域の未来図作成支援事業
 - ・「限界集落の維持・存続に向けた取組」
 - ・「地域ブランドの確立に向けての取組」
 - ・「交流移住の推進」
 - 講座受講生に対する“まなび”へのニーズ調査
 - ② 平成22年度研究テーマの概要
 - 地域の未来図作成支援事業
 - ・「地域の夢づくり・人づくり」モデル研究事業（新規）
 - ・「家族の防災計画」作成モデル事業（新規）
 - ・「限界集落の維持・存続に向けた取組」（継続）
 - ・「地域ブランドの確立に向けての取組」（継続）
 - ・「交流促進のための魅力発信」（継続）
 - ③ その他
 - ・第23回地方シンクタンクフォーラムでの事例発表 等
 - （4）研究に関する助言・提言 等
 - （5）閉会
5. 配布資料
 - （1）資料1 次第、出席者名簿、配席図、センター設置規程、委員会設置要領、組織体制
 - （2）資料2 平成21年度研究成果
 - （3）資料3 平成22年度研究テーマの概要
 - （4）資料4 その他

6. 委員会実施概要

(1) 開会

(2) 開会挨拶（所長）

(3) 議事

① 平成21年度研究成果

② 平成22年度研究テーマの概要

③ その他

※事務局から①～③を説明。



(4) 研究に関する助言・提言等

[委員長]

県立総合大学校は、平成20年6月に発足ということで、当政策研究センターの研究活動は、平成21年度が実質的な始動の年である。

なお、昨年の委員会で、評価方法については、当面、具体的な評価基準は設けず、幅広いご助言、ご提言などをいただくこととなっている。

平成21年度の研究テーマのうち、まず、「限界集落の維持・存続に向けた取組」について、ご助言、ご提言などをいただきたい。

[A委員]

2点程質問させていただきたい。まず、1点目は、事前のヒアリング調査はどの程度の件数をされたのかということ、2点目は、平成21年度の自治体等代表者へのアンケート調査では空き家に対するアンケートがあったが、平成22年度の住民へのアンケート調査予定では削除されているが、これはどのようなことか。

[事務局]

事前のヒアリング調査は、対象自治体4町の行政担当者として、4町の各2地区、すなわち8地区の代表者に対して実施した。次に、アンケート調査における空き家に関する項目については、いろいろ意見が出た中で現在の案を纏めたが、再度、よく検討したうえで決定したい。

[委員長]

子供がいるかどうかなど、大変興味深い結果が出ていると思う。同じ南部圏域でも、那賀町と海部郡では大分差がある。

[所長]

これは、徳島県全体にも言えることだが、山間部から沿岸部に人口移動が進んでいるような状態だ。

[委員長]

次の研究テーマである「地域ブランドの検討」についてはどうか。

[C委員]

南部圏域は、魅力があり今後の可能性が高いことは平成21年度アンケート調査結果が示しているのので、情報発信などを今後どのような手段でどのように実施していくのか、どこまで、とくしま政策研究センターが具体的に踏みこんでいくのか、そのあたりをお伺いしたい。

[所長]

ただ引き続き研究をということではなく、今の時代に合うように、できるだけ早く出た結果を活用して具体化していけるよう、南部県民局と共同で進めていく。

[委員長]

研究が終わらなければ、次の段階に行かないのではなく、西部県民局との共同のように研究をしながら、政策形成に活かしていってもらいたい。

[C委員]

県外の旅行関係者に、南部圏域に見に来てもらうということだが、いろいろなところを満遍に発信するのではなく、アピール力を弱めないよう、対象を絞ってアピールしていかないといけないところについて、ヒアリング調査やアンケート調査をやったほうがいいのか。

[A委員]

私も、その意見に賛成で、県外の旅行関係者に来てもらって、ヒアリング調査やアンケート調査をしたほうがいいのかと思う。また、旅行に行くとき必ずその地域のおいしい食べ物を食べる。そうしたことから、今ある郷土料理だけでなく、地域の人達で新しい郷土料理を考えてみてはどうか。

こうした食べ物などを活用して、地域ブランドを地域で育てていくことも必要と思う。

せっかく、「ウェルかめ」で全国デビューしたのだから、そのまま萎んでいくのではなく、何とかこのチャンスを活かせるように、地域住民も含めてみんな盛り上げてほしい。

[B委員]

「限界集落の維持・存続」、「地域ブランドの確立」、「交流移住の推進」と三つの研究テーマは相互に関連している。最終的には、交流移住までできればいいのだが。「限界集落の維持・存続」は、予想どおり厳しい結果が出ている。これをどう維持・存続するかというのは、本当に難しい。

「地域ブランドの確立」については、もう一度来たいという回答は出ているが、では実際にその人が2回・3回来るかということ、これは非常に大きな段差がある。余程、その人にとって大きな魅力を発見できたとか、自分自身が日頃考えている部分に触れたとか、「交流移住の推進」にも若干繋がってくるのだが、このあたりをよく研究してほしい。

単に、観光に来てもらうのと、交流移住にまで結びつけていくのとでは、政策の中身が全然違ってくる。「地域ブランドの確立」の調査にあたっては、このあたりを明確にしたうえでやっていかないといけないと思う。

地域ブランドとして徳島県の中では、上勝町が突出した存在になっている。そうしたことから、徹底的に上勝町を研究してみるといいのではないか。

広い視点で、第三者的に分析してみしてほしい。それと、県内の他の地域が、それをいかに活用していくか。同じようにしても失敗するだけになる。しかし、上勝町を分析することから得ることは多いと思う。

上勝町の「いろどり」の横石社長との対談の中で糸井重里氏が、お金の使い方・考え方について言っているが、若者のお金についての考え方が、今、大きく変わって来ていると言っている。若者が一番時代の変化を感じており、そうした大きな時代の変化を敏感に感じ取っている人が、上勝町に来ている。どういう理由で、こうした若者が上勝町に来て、何を考えて、どのように行動に繋げていっているのかを研究して、南部圏域や西部圏域に落とし込みしていけば、交流移住に繋がっていくのでないか。

[所長]

今年11月に、地方シンクタンク協議会中国四国ブロックの視察で、上勝町に行く予定にしている。その人達に、自分たちの地域と上勝町を比較してもらえば、いろいろヒントになることがあるのではないかと考えている。

目指すところは、交流、次に滞在、最後に移住、そうすれば、限界集落化を防ぐことになると思う。

[B委員]

県外の人の意見を聞くのもいいことだと思う。しかし、それだとどうしても地域リーダーの育て方とか一般的なことになってしまう。私としては、もう少し本質的なところに迫ってほしい。上勝町は見学に来た人達に何もかも見せている。にもかかわらず、第2・第3の上勝町は出てこない。これは何か目に見えないものがあると感じている。実は、その部分が一番大事なことで、そこを何とか嗅ぎつけて、南部圏域や西部圏域にあったように、落とし込みできればいいのと思う。

[所長]

ブランドはそこにしか無いもの、生みだせないものと思う。具体的な解決策がずっと出て来ないが、地域の人達と一緒に考えて、研究を継続して続けていかないといけないと考えている。目に見える具体的な行動を早く実践していくことと、あわせて研究も継続してやっていきたいと思う。

[D委員]

平成22年度の研究テーマに、「地域の夢づくり・人づくり」モデル研究事業があるが、何人くらいを考えているか。

[事務局]

今、市町村や県の関係箇所にお問い合わせしており、推薦いただいた中から、3例から5例程度をモデル化したいと考えている。

[委員長]

今回の「地域の夢づくり・人づくり」モデル研究事業においても、上勝町モデルの深堀りも対象になって来るのではと思う。鳩山政権の「新しい公共円卓会議」でも、上勝町の「いろどり」をモデル化できないかということが検討に上がっている。

[所長]

答えが出せばいいが、そう簡単にいかないと思っている。研究した中で、一つでも解決策に繋げていけるモデルづくりが出来れば。

[委員長]

昔、上勝町で「上勝町が元気なのは、一人の突出したリーダーがいるからなのか」と質問したところ、「それは違う。リーダーは次々に生まれてくるんだ」と言われた。

上勝町の人には本当によく勉強している。夜、仕事が終わってから、「1Q塾」とか、みんなで集まって勉強している。こうしたことが、影響しているのではないかと。リーダーを輩出する仕組みを、是非研究してもらいたい。

県内幅広く事例を集めることと合わせて、上勝町や美波町伊座利地区など特異な事例も研究してほしい。

[A委員]

私は、吉野川市美郷地区にも注目している。地元の人で体験型宿泊をやっている方々が、昼食を出して、特区などもやっている。その方々が、外部の講師を招いてワークショップを何度もやって、年間を通じて来てもらえるように、みんなで考え、実践して盛り上がっている。

[B委員]

地元の人には、なかなか地元のいいところに気づかない。一度県外に出て、帰ってきた人はいいところに気づくことが多い。そうしたところから、いろいろ広がっていく。例えば、三好市山城町の「妖怪の里」づくりもそうしたことが発端だった。

それと、みんながよく勉強している。こうしたことが、本当に大事だと思う。上勝町もそうだし、昔、三木知事が進めていた徳島県民運動、ここから地域リーダーの第一世代の人達が育った。

その人達は、スイスにいい事例があると聞けばそこにすっと飛んでいく。そうした人達の延長上に、今の上勝町に来る若者達がいる。

若者達は、今の閉塞的な社会にかなり失望していることもあって、徳島の中山間地域に、新しい社会の未来を感じる何かを求めてやって来ている。

そこで地元の人達から新しい刺激を受けるし、地元の人達にも新しい刺激を与える。そうしたことから、その地域の好循環が生まれ、地域が活性化されているのではないかと思う。こうしたことをよく研究して、南部圏域や西部圏域に応用していければいいと考えている。

[委員長]

とくしま政策研究センターは、県立総合大学校の中の政策研究センターということで、今回、まなびに関するアンケート調査をされていて、非常に興味深いところがあった。アンケート調査結果の属性を見ると、シルバー層に偏った状態でなくて全世代が学んでいて、非常に素晴らしいことに思う。今後も「まなびのニーズ」をよく調査して、今後の県立総合大学校の運営に活かしてほしい。

閉会

(別紙)

徳島県立総合大学校 とくしま政策研究センター
外部評価委員会 出席者名簿 (平成22年6月30日)

◎ とくしま政策研究センター「外部評価委員会委員」

委員氏名 (敬称略・順)	役 職	備 考
植 田 和 俊	社団法人徳島新聞社 理事社長	
玉 有 繁	徳島文理大学 総合政策学部 教授	
田 村 耕 一	公益財団法人徳島経済研究所 専務理事	
友 滝 洋 子	藍住町国際交流協会 会長	
森 真 弓	鳴門市 長寿介護課 係長	

◎ とくしま政策研究センター「職員」

氏 名	役 職 (とくしま政策研究センター)	備 考
柏 木 修	所 長	徳島県政策企画総局 県立総合大学校本部長
板 東 通 泰	副 所 長	自治研修センター 次長
中 村 順	主 任 研 究 員	政策企画総局 課長補佐
水 野 則 夫	主 任 研 究 員	四国電力(株)より派遣
大 岩 恵 子	研 究 員	政策企画総局 主任
栗 島 孝 枝	研 究 員	〃 主任主事

◎ その他

氏 名	役 職	備 考
伊 濱 芳 宏	徳島県政策企画総局 主査兼係長	